

都市再生整備計画 事後評価シート(原案)
茨木市中心拠点再生地区

令和7年2月

大阪府茨木市

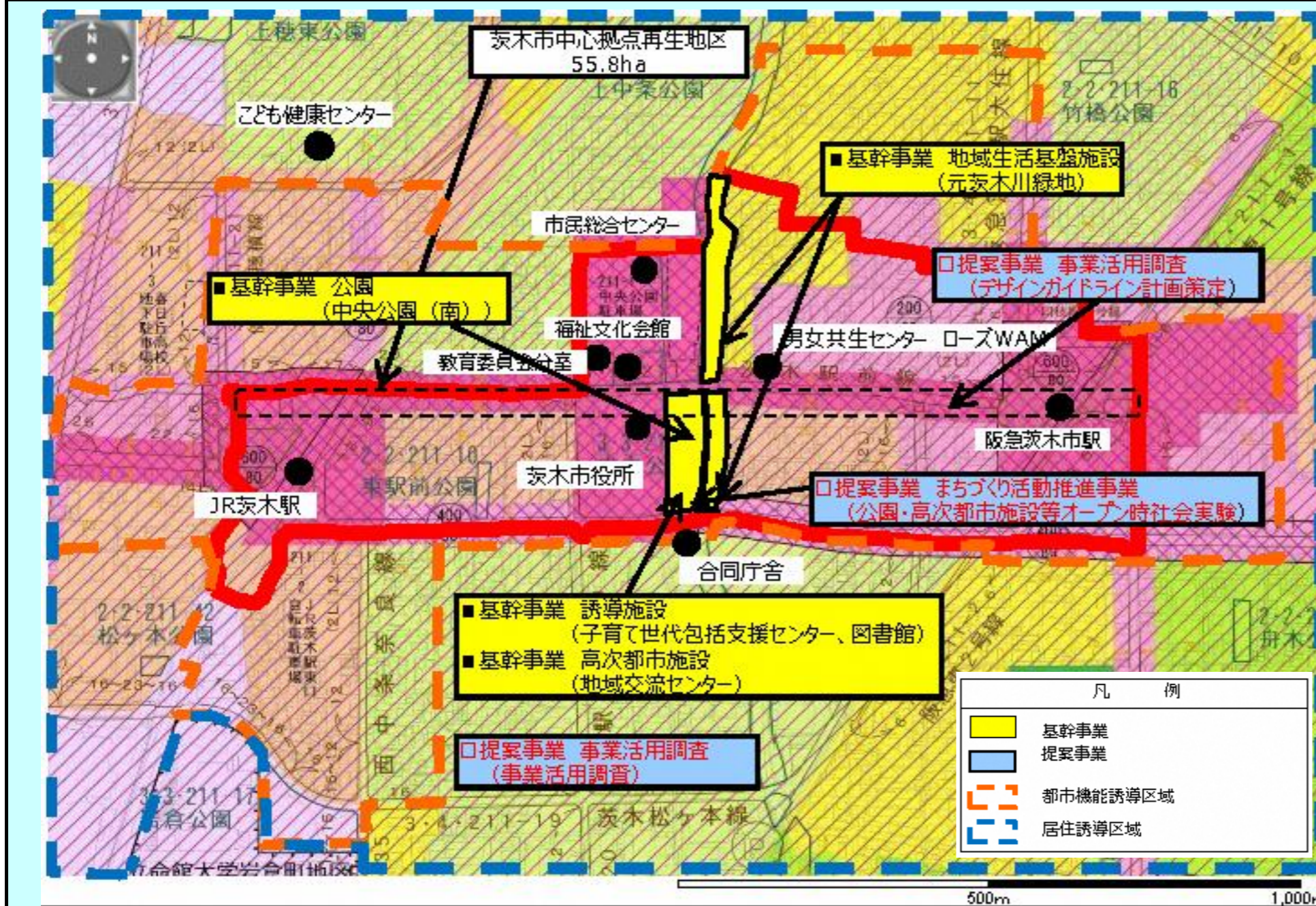
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大阪府	市町村名	茨木市	地区名	茨木市中心拠点再生地区			面積	55.8ha				
交付期間	令和2年度～令和5年度	事後評価実施時期	令和6年度	交付対象事業費	6889.5百万円	国費率	0.5						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	公園、地域生活基盤施設(緑地)、高次都市施設(地域交流センター)、誘導施設(社会福祉施設・教育文化施設)										
		提案事業	事業活用調査(デザインガイドライン計画策定・事業活用調査)、まちづくり活動推進事業(公園・高次都市施設等オープン時社会実験)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	-	削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響							
		提案事業	-										
	新たに追加した事業	基幹事業	-										
	提案事業	事業活用調査(立地適正化計画改定)		当計画の進展を踏まえた中で次期計画の策定を見据え、立地適正化計画改定の必要性が生じたため。		なし							
交付期間の変更	当初	令和2年度～令和5年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-								
	変更	なし											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	数値	目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ				
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期			
	指標1	大ホール利用率	%	62.0	H26	72.0	R5	-	74.7	○	あり	都市機能再編による、新たな市の顔として大ホールを含む「おにクル」という拠点が形成された。「おにクル」は多様な機能が集積しており、その開館前後には周辺で多数の社会実験やイベント等が実施された。その結果、市民のシビックプライドが醸成され、市民が誇れるまちづくりが進んだと考えられる。そうした状況から考察すると、「おにクル」の整備とその一連の取り組みは、「おにクル」が市民が誇れる「ハレの場」となることの一助になると共に、大ホールの利用率増加にも貢献したと考えられる。	-
	指標2	子育て関連施設利用者数	人/年	58,749	H30	73,100	R5	-	123,412	○	あり	今回の事業により、子育て関連施設利用者数が増加することとなったが、これは子育て関連施設を集約(ワンストップサービス化)するなど文化複合拠点創出による、子育て家庭の利便性向上が要因の一つと考えられる。	-
	指標3	図書館利用者数(図書館貸出人数)	人/年	121,765	H29	134,400	R5	-	184,987	○	あり	今回の事業により、図書館利用者数が増加することとなったが、これは子育て関連施設をはじめとした文化複合拠点の創出による、幅広い世代にとっての利便性向上が要因の一つと考えられる。	-
指標4	元茨木川緑地に対する不満足度	%	48.5	H27	43.6	R5	-	39.8	○	あり	今回の事業により、元茨木川緑地に対する不満足度が減少することとなったが、これは元茨木川緑地の再整備と、「おにクル」を含めた中央公園との一体的な交流・憩い空間の創出が要因の一つと考えられる。	-	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
	その他の数値指標4												
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 大ホールをはじめ、その他規模に応じたイベントを開催することが可能なスペースも設けられ、市民活動がより活発になった。 子育て関連施設を集約(ワンストップサービス型)する形で整備したことにより、子育て環境が向上した。 子どもがのびのびと遊べる広場や屋内での遊びスペースを整備したことにより、保護者の交流の場が創出され、子育て環境も向上した。 子育て関連施設を集約(ワンストップサービス型)する形で整備したことにより、子育てに関する相談・情報提供体制が充実し、子育て環境が向上した。 一つ一つの椅子の形が異なる等、特徴のある図書館を整備することで、中学生や高校生等の若年層だけでなく、幅広い世代が図書館内を中心に、中央公園一帯に滞留するようになった。 元茨木川緑地の整備により、中央公園と元茨木川緑地が一体的に活用されるようになり、これまでよりも多種多様なイベントが開催されるようになり、市民のシビックプライド向上の一助となった。 												
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-						
	官民連携による取組	①中心市街地の東西軸となる中央通りと東西通りにおけるデザインガイドライン計画策定に向けた将来像(素案)を検討するため、市民と専門家を交えた「いばらきストリートデザインワークショップ」を実施。 ②ワークショップの結果を踏まえ、具体的な将来イメージの共有および実現にあたっての課題等を検証するため、社会実験「茨木みちクル」を実施。	都市再生整備計画に記載し、実施できた ● 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				ワークショップや社会実験の実施を踏まえ、将来的な中央通りと東西通りの一方通行化に向けて構想の検討を進めていくべく、沿道の機運醸成に努める。						
	持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-						

様式2-2 地区の概要

茨木市中心拠点再生地区(大阪府茨木市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標:都市機能再編を契機とした、シビックプライド及び利便性の向上と、人々が賑わい・集い・憩うことの出来る魅力あるまちづくり 目標1:都市機能再編による、新たな市の顔としての拠点形成を契機とした、市民が誇れるまちづくり 目標2:市民ニーズを踏まえた、新たな機能導入による文化複合拠点創出による、利便性の高いまちづくり 目標3:市民が集い、誰もが交流し憩える交流空間を創出することによる、賑わいのあるまちづくり	大ホール利用率	単位:%	62.0	H26	72.0	R5	74.7	R6
	子育て関連施設利用者数	単位:人/年	58,749	H30	73,100	R5	123,412	R6
	図書館利用者数(図書館貸出人数)	単位:人/年	121,765	H29	134,400	R5	184,987	R6
	元茨木川緑地に対する不満足度	単位:%	48.5	H27	43.6	R5	38.8	R6



高次都市施設(地域交流センター)
誘導施設(社会福祉施設・教育文化施設)



地域生活基盤施設(緑地)

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・「おにクル」という文化複合拠点創出により、公共建築物の集約化・複合化が実現し、公共建築物保有量の適正化・適正配置の推進に寄与した。 ・「おにクル」の整備により、多様化する市民ニーズへの対応が可能となり、市民の利便性が向上した。特にワンストップ拠点として子育て支援体制が充実したことにより、安心して子育てができる環境が形成された。さらに、主に乳幼児向けの遊び場を整備し、子どもの遊び場が確保されると同時に、保護者が交流できる憩いの場が確保された。 ・その他にも、大ホールをはじめとした様々なイベントスペースに加え、図書館や広場スペース等が整備されることで、中学生・高校生等の若年層だけでなく、幅広い世代が憩い集うことができるようになった。 ・また、「おにクル」と連動する形で、元茨木川緑地の整備がなされ、「おにクル」を含めた中央公園との一体的・面的な交流・憩い空間が創出された。 ・こうしたハード面の整備だけではなく、令和3年度から令和5年度にかけて社会実験を実施し、ソフト面の取り組みも推進することで、まちの魅力の掘り起こしと発信による回遊性の向上を目指す等、ハード・ソフトの両面からシビックプライドの向上が実現した。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も多様化する市民ニーズに対応する為、ニーズ把握に努めるとともに、施設の適切な維持管理を図り、官民連携の取組等による利用の促進を検討していく。 ・公共施設の老朽化に伴う都市機能の再編

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価会議(評価委員会)の審議

- 添付様式8 評価会議(評価委員会)の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし	
指標1 大ホール利用率	%	・文化子育て複合施設(愛称:おにクル)内の大ホールについて、令和6年1~12月までの1年間の「利用者数」と「年間利用可能日数」を把握する。 ・上記「利用者数」を上記「年間利用可能日数」で除した値を、『大ホール利用率』の評価値とする。	-	-	62.0	H26	72.0	R5	モニタリング	-	-	モニタリング	-	-	-
									事後評価	確定 ●	74.7	事後評価	74.7		
指標2 子育て関連施設利用者数	人/年	・文化子育て複合施設(愛称:おにクル)内の子ども支援センターについて、令和6年1~12月までの1年間の「利用者数」を計測する。 ・上記「利用者数」を、『子育て関連施設利用者数』の評価値とする。	-	-	58,749	H30	73,100	R5	モニタリング	-	-	モニタリング	-	-	-
									事後評価	確定 ●	123,412	事後評価	38.8		
指標3 図書館利用者数 (図書館貸出人数)	人/年	・文化子育て複合施設(愛称:おにクル)内の中条図書館について、令和6年1~12月までの1年間の「貸出人数」を計測する。 ・令和6年1~12月までの1年間の「貸出人数」を、『図書館利用者数(図書館貸出人数)』の評価値とする。	-	-	121,765	H29	134,400	R5	モニタリング	-	-	モニタリング	-	-	-
									事後評価	確定 ●	184,987	事後評価	○		
指標4 元茨木川緑地に対する不満足度	%	・緑の基本計画改定時にアンケート調査を実施。同アンケート調査内に、緑の基本計画に関する市民アンケート調査と同一の質問項目(元茨木川緑地についてどう思うか)を盛り込む ・上記アンケート調査の結果において、「安全面で不安がある」「人々が集える場所がない」「利用者のルール・マナーが悪い」「魅力的な行事・イベントがない」と回答した市民の割合の合算値を、『元茨木川緑地に対する不満足度』の評価値とする。	-	-	48.5	H27	43.6	R5	モニタリング	-	-	モニタリング	-	-	-
									事後評価	確定 ●	39.8	事後評価	○		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	事後評価時点の評価値が、目標値を上回っており、目標を達成したため○とした。 地域拠点の整備により、賑わいが創出され、大ホールの利用率増加に寄与した。	市民の施設利用の促進
指標2	事後評価時点の評価値が、目標値を上回っており、目標を達成したため○とした。 点在した子育て関連施設を一元化することにより、市民の利便性向上に繋がり、利用人数増加に寄与した。	市民の施設利用の促進
指標3	事後評価時点の評価値が、目標値を上回っており、目標を達したため○とした。 複合施設化することにより、ついで利用や普段利用しない方々の貸出増もあり目標達成に至った。	市民の施設利用の促進
指標4	事後評価時点の評価値が、目標値を上回っており、目標を達成したため○とした。 モデル地区として、地域拠点に隣接し整備し、一体的な利用を行うことにより、賑わいが創出され、目標達成に至った。	-

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。
 ※2 目標達成度の記入方法
 ○: 評価値が目標値を上回った場合
 △: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
 ×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)	
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	モニタリング	事後評価			
その他の数値指標1							モニタリング	-	-		
							事後評価	確定 ●			
その他の数値指標2							モニタリング	-	-		
							事後評価	確定 ●			
その他の数値指標3							モニタリング	-	-		
							事後評価	確定 ●			

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・大ホールをはじめ、その他規模に応じたイベントを開催することが可能なスペースも設けられ、市民活動がより活発になった。
 ・子育て関連施設を集約(ワンストップサービス型)する形で整備したことにより、子育て環境が向上した。
 ・子どもがのびのびと遊べる広場や屋内での遊びスペースを整備したことにより、保護者の交流の場が創出され、子育て環境も向上した。
 ・子育て関連施設を集約(ワンストップサービス型)する形で整備したことにより、子育てに関する相談・情報提供体制が充実し、子育て環境が向上した。
 ・一つ一つの椅子の形が異なる等、特徴のある図書館を整備することで、中学生や高校生等の若年層だけでなく、幅広い世代が図書館内を中心に、中央公園一帯に滞留するようになった。
 ・元茨木川緑地の整備により、中央公園と元茨木川緑地が一体的に活用されるようになり、これまでよりも多種多様なイベントが開催されるようになり、市民のシビックプライド向上の一助となった。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
将来文化複合施設(高次都市施設、誘導施設)を利用する市民と一緒に施設等の設計を考えるワークショップを実施。	予定どおり実施した	●【実施状況】令和3年度に5回の設計ワークショップ(令和3年7月19日、8月22日、9月11日、11月20日、令和4年3月13日実施)。 【実施結果】文化複合施設でやってみたい事や使い方など一緒に考えていき必要な備品や設備に反映し、最終回ではワークショップで出た意見を踏まえた設計内容の展示会を開催してワークショップ参加者以外にも広く周知を行った。	今後は、文化複合施設からまちの中に活動を広げていくべく、人や場の育成に努める。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
中心市街地の東西軸となる中央通りと東西通りにおけるデザインガイドライン計画策定に向けた将来像(素案)を検討するため、市民と専門家を交えた「いばらきストリートデザインワークショップ」を実施。	予定どおり実施した	●【実施状況】令和3年度に3回のワークショップ(令和3年10月17日、11月14日、12月19日実施)と2回の勉強会を開催(令和3年9月16日、令和4年2月6日実施)。 【実施結果】各回平均で約35名が参加し、「将来の姿(将来イメージ)」を検討し、より魅力的な通りにするための取組みや空間活用のアイデアなどを参加者間で話し合った。	将来的な中央通りと東西通りの一方通行化に向けて構想の検討を進めていくべく、沿道の機運醸成に努める。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
ワークショップの結果を踏まえ、具体的な将来イメージの共有および実現にあたっての課題等を検証するため、社会実験「茨木みちクル」を実施。	予定どおり実施した	●【実施状況】令和4年度から令和5年度にかけて、実際に公共空間を活用した社会実験を実施(令和4年11月3日～11月30日、令和5年11月25日～26日実施)。 【実施結果】令和3年度に実施した「いばらきストリートデザインワークショップ」を踏まえ、魅力的な通りや空間を生み出すための社会実験を実施。令和5年度は沿道の店舗も協力する社会実験となり、盛り上がりを見せた。	同上
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した	-	-	-
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事後評価庁内意見聴取	茨木市 市民文化部 共創推進課、文化振興課 茨木市 建設部 公園緑地課 茨木市 子ども育成部 子育て支援課 茨木市 教育委員会事務局 教育総務部 中央図書館 茨木市 都市整備部 都市政策課	令和6年4月23日～令和6年11月26日	大阪府茨木市 市民文化部 共創推進課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標1		指標2		指標3		指標4	
指標名		大ホール利用率		子育て関連施設利用者数		図書館利用者数 (図書館貸出人数)		元茨木川緑地に対する不満足度	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	公園(中央公園(南))	◎	都市機能再編による、新たな市の顔として大ホールを含む「おにクル」という拠点が形成された。「おにクル」は多様な機能が集積しており、その開館後は周辺で多数の社会実験やイベント等が実施された。その結果、市民のエンピックプライドが醸成され、市民が誇れるまちづくりが進んだと考えられる。そうした状況から考察すると、「おにクル」の整備とその一連の取り組みは、「おにクル」が市民が誇れる「ハシの場」となることの一助になると共に、大ホールの利用率増加にも貢献したと考えられる。	◎	今回の事業により、子育て関連施設利用者数が増加することとなったが、これは子育て関連施設を集約(ワンストップサービス化)するなど文化複合拠点創出による、子育て家庭の利便性向上が要因の一つと考えられる。	◎	今回の事業により、図書館利用者数が増加することとなったが、これは子育て関連施設をはじめとした文化複合拠点の創出による、幅広い世代にとっての利便性向上が要因の一つと考えられる。	◎	今回の事業により、元茨木川緑地に対する不満足度が減少することとなったが、これは元茨木川緑地の再整備と、「おにクル」を含めた中央公園との一体的な交流・憩い空間の創出が要因の一つと考えられる。
	デザインガイドライン計画策定	—		—		—		○	
	事業活用調査	—		—		—		—	
	立地適正化計画改定	○		○		○		○	
	公園・高次都市施設等オープン時社会実験	◎		◎		◎		◎	
関連事業									

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標1	指標2	指標3	指標4
今後も多様化する市民ニーズに対応する為、ニーズ把握に努めるとともに、施設の適切な維持管理を図り、官民連携の取組等による利用の促進を検討していく。	今後も多様化する市民ニーズに対応する為、ニーズ把握に努めるとともに、施設の適切な維持管理を図り、官民連携の取組等による利用の促進を検討していく。	今後も多様化する教育・保育ニーズをはじめとした子育て世代のニーズに対応する為、ニーズ把握に努めるとともに、施設の適切な維持管理を図り、官民連携の取組等による利用の促進を検討していく。	今後も多様化する市民ニーズに対応する為、ニーズ把握に努めるとともに、施設の適切な維持管理を図り、官民連携の取組等による利用の促進を検討していく。	今後も多様化する市民ニーズに対応する為、ニーズ把握に努めるとともに、施設の適切な維持管理を図り、官民連携の取組等による利用の促進を検討していく。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標1			指標2			指標3			指標4		
指標名		大ホール利用率			子育て関連施設利用者数			図書館利用者数 (図書館貸出人数)			元茨木川緑地に対する不満足度		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業													
提案事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能なお要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能なお要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能なお要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能なお要因。

改善の方針 (記入は必須)	指標1	指標2	指標3	指標4

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事後評価庁内意見聴取	茨木市 市民文化部 共創推進課、文化振興課 茨木市 建設部 公園緑地課 茨木市 子育て支援課 茨木市 教育委員会事務局 教育総務部 中央図書館 茨木市 都市整備部 都市政策課	令和6年4月23日～令和6年11月26日	茨木市 市民文化部 共創推進課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
○公共施設の老朽化に伴い必要となる都市機能の再編による、コンパクトなまちづくりの推進 ・市民に親しまれた市民会館が老朽化のため閉館しただけでなく、他の公共施設や緑地等も同様に老朽化が著しく、改修等の対応が必要な状況である。市民会館跡地には都市機能を集約するための複合機能を有する施設や来街者がゆったりと時間を消費出来る憩いの場(広場・緑地等)を整備予定である。そうした本地域の核となる施設の整備とともに、拠点性のある公共施設整備が必要である。 ○市民ニーズをふまえた利便性の高いまちづくりの推進 ・市民との対話の結果、市民のハレの場としてのホールや、子育て支援のワンストップ拠点、誰もが憩い集うことのできる図書館や広場スペース等のニーズがあることが明らかとなった。こうした施設を単独で整備するのではなく、合築することで市民の生活利便性を向上させていく必要がある。 ○中心市街地における回遊性の向上 ・本地域の核となる施設を単に整備するだけではなく、他の地域(中心市街地)への波及効果を生み出すために、回遊性の向上に努める必要がある。具体的には、中央公園(南)と元茨木川緑地の再整備を行い、誰もが気軽に訪れることのできる環境づくりが必要である。	・「おにクル」という文化複合拠点創出により、公共建築物の集約化・複合化が実現し、公共建築物保有量の適正化・適正配置の推進に寄与したが、老朽化した公共施設が残っている。 ・「おにクル」の整備により、多様化する市民ニーズへの対応が可能となり、市民の利便性が向上した。特にワンストップ拠点として子育て支援体制が充実したことにより、安心して子育てができる環境が形成された。さらに、主に乳幼児向けの遊び場を整備し、子どもの遊び場が確保されると同時に、保護者が交流できる憩いの場が確保された。 ・その他にも、大ホールをはじめとした様々なイベントスペースに加え、図書館や広場スペース等が整備されることで、中学生・高校生等の若年層だけでなく、幅広い世代が憩い集うことができるようになった。 ・また、「おにクル」と連動する形で、元茨木川緑地の整備がなされ、「おにクル」を含めた中央公園との一体的・面的な交流・憩い空間が創出された。 ・こうしたハード面の整備だけではなく、令和3年度から令和5年度にかけて社会実験を実施し、ソフト面の取り組みも推進することで、まちの魅力の掘り起こしと発信による回遊性の向上を目指す等、ハード・ソフトの両面からシビックプライドの向上が実現した。	公共施設の老朽化に伴う都市機能の再編	なし

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	市民ニーズを踏まえた取り組みの検討	今後も多様化する市民ニーズに対応する為、ニーズ把握に努めるとともに、施設の適切な維持管理を図り、官民連携の取組等による利用の促進を検討していく。	

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	公共施設の老朽化に伴う都市機能の再編	公共施設の再編に伴う更なるパーク機能の充実	

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

● 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
● 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
● 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
● 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
● 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標	単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画				
		年度	年度	年度	年度	評価値	評価値			予定時期	計測方法	その他特記事項		
指標1	大ホール利用率	%	62.0	H26	72.0	R5	確定 見込み	● ○	74.7	あり なし	- -			
指標2	子育て関連施設利用者数	人/年	58,749	H30	73,100	R5	確定 見込み	● ○	123,412	あり なし	- -			
指標3	図書館利用者数(図書館貸出人数)	人/年	121,765	H29	134,400	R5	確定 見込み	● ○	184,987	あり なし	- -			
指標4	元茨木川緑地に対する不満足度	%	48.5	H27	43.6	R5	確定 見込み	● ○	39.8	あり なし	- -			
その他の数値指標1							確定 見込み							
その他の数値指標2							確定 見込み							
その他の数値指標3							確定 見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	いずれの指標も目標値を上回っていた。これは、「おにクル」を単一用途の施設としてではなく、文化複合拠点施設として整備したことにより、市民の利便性が大幅に向上したことがその要因の一つとして考えられる。	次期計画で整備予定としている都市計画公園についても、多様な使い方を過ぎ方があるため、単一的な機能を持たせるのではなく、様々な用途で共有し、複合利用ができるような広場の計画が望ましい。
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	中心市街地の東西軸となる中央通りと東西通りにおけるデザインガイドライン計画策定に向けた将来像(素案)を検討するため、市民と専門家を交えた「いばらきストリートデザインワークショップ」を実施した。また、その結果を踏まえ、具体的な将来イメージの共有および実現にあたっての課題等を検証するため、社会実験「茨木みちクル」を実施する等、多くの住民参加が実現した。	ワークショップや社会実験を継続して実施し、市民が積極的にまちづくり活動に参加しやすい環境を整備することで、将来的な中央通りと東西通り活性化に向けた沿道の機運醸成に努める。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

茨木市中心拠点再生地区(第2期)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和6年12月9日～令和7年1月9日	同左	担当課への持参、Logoフォーム	茨木市 市民文化部 共創推進課
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	共創推進課窓口で閲覧	令和6年12月9日～令和7年1月9日	—		

住民の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・おにクルの整備と一体で元茨木川緑地の整備がなされ、樹木が鬱蒼として近寄りにくかった場所がデッキ等休憩できるようになり、また北側の茨木神社横は自転車と歩行者が分離されて、歩きやすい緑地になり、とても有り難いです。 ・元茨木川緑地の整備について、従前の樹木が鬱蒼とし薄暗い雰囲気から、樹木を間引いたことにより明るくなり、また、ウッドデッキなど座って憩うことができる空間ができたことで過ごしやすくなったことが良い。また、自転車と歩行者の通行分離が図られたことにより安全な空間になった。今後も引き続き、公共空間の質の向上に取り組まれない。 ・今までの鬱蒼としていた緑地がスッキリして素晴らしいですね。おにクルを背にした元茨木川緑地の景観も良いと思います。 ・おにクルが出来、これまでどこにこれだけの人がいたんだろうと思うくらい人がいます。 <p>夜は学生さんが頑張っていて将来が楽しみです。</p>
-------	---

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	会議の設置根拠	会議の母体組織
学識経験のある委員	岡絵里子(関西大学 教授) 中谷 祐介(大阪大学大学院 准教授) 延原 理恵(京都教育大学 教授) 細井 雅代(追手門学院大学 教授)	令和7年1月27日	茨木市 建設部 建設管理課	茨木市附属機関設置条例	建設事業評価委員会
その他の委員	西村 宏史(茨木商工会議所 事務局長)				

審議事項※1		評価委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	
	成果の評価	
	実施過程の評価	
	効果発現要因の整理	
	事後評価原案の公表の妥当性	
	その他	
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	
	フォローアップ	
	その他	
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	
その他		

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式8)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	特になし
--------	------